

JA香川県豊南地区GAP研究会

GAPの種類：JGAP 団体認証 初回認証日：令和3年10月 農場数：6農場《R7年1月現在》

認定品目：レタス、ロメインレタス、ねぎ、ブロッコリー、たまねぎ、にんにく、スイートコーン、なす

事務局：JA香川県西讃営農センター

●GAPに取り組んだ目的は何ですか？

農場や集荷場での「労働事故」「食品事故」のリスク低減など、共通の目標を持ち、結束力のある持続的な営農を目指すためです。また、GAPに取り組むことで、市場や消費者に安心な農産物生産をPRして、産地の活性化につなげるのが目標です。

●GAPに取り組んで良かったことは何ですか？

株式会社土緑家 近藤雅彰氏

農業経営に潜むリスクを少なくするためのルールとなっています。GAPの良いところは一度やってみて、自分の経営にあった変更を加えられることです。



スーサン・アグリ 鈴木章弘氏

今まで、作業や倉庫などで、認識していなかった「危険な所」が見えるようになってきました。労災加入で安心できています。



カリヤブ農園 菱藪健司氏

GAPで、社員や技能実習生に当農園の目標や仕事・記録の必要性を明確に伝えられるツールとなっています。経営者として、気持ち良く取り組んでいます。



高橋けんた農園 高橋健太氏

5S(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)を意識するようになりました。安心安全な農産物を生産し、地域の環境を維持し、サステナブルな農業経営を確立するために、JGAPは有効な手段の一つであると思います。



事務局とともに
農場マップの見直し



GAP研修会で取り組み紹介



JGAP認証マーク表示

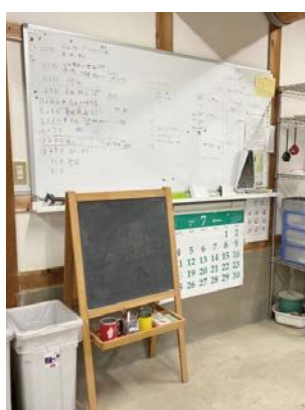


JA集荷場での衛生管理
「パレットの上に置く」

●GAPに取り組んだきっかけは何ですか？

NORZERN FARM SEGO 合田隆裕氏

農業の新しい取り組みの「GAP」をチャレンジしたかった。経営の見える化と、第三者に説明できる農業で、農場のレベル向上を目指したい。



やました農園 山下大輔氏

GAPの理念やEUでの取り組み状況から、これからの量販店取引や業務取引では、GAPが求められると考えています。専業農家には必要なルールと思い、取り組みました。



●JA香川県豊南地区GAP研究会事務局から

一歩踏み出してみればやる事はシンプルで、それを地道に積み上げていくことで必ず成果が出ます。事務局を担う西讃営農センターでは、取り組み者への十分なサポート体制を整えています。お気軽にお声がけください。(問い合わせ先：JA香川県西讃営農センター 園芸課 石山・藤村 TEL0875-54-3124)